



# たんぽぽ

秋はいつやって来るのかと思っていたら、朝晩には涼しい風が感じられるようになり、少しずつ季節の移り変わりを実感します。こどもたちは宿泊学習や遠足、学芸会などの行事を通して、友達と協力したり、自分の力を発揮したりとたくさんの経験を重ねていく時期ですね。学びの秋にふさわしく一人一人の意欲を大切にしながら、ことばの教室でも寄り添っていきます。御家庭でも体調管理に気を付けながら実り多い季節をお過ごしください。

## 行事予定

### 10月

- 7日(火) 午後: 城南ブロック研究会
- 8日(水) 午後: 第3回 吃音グループ活動
- 9日(木) 午後: 就学支援委員会
- 11日(土) 学校公開日・親子相談
- 13日(月) **スポーツの日**
- 14日(火) 振替休業日 午後: 都難現協 専門研究会
- 24日(金) 午後: 指導課訪問

### 11月

- 3日(月) **文化の日**
- 4日(火) 午後: 城南ブロック研究会
- 12日(水) 第4回 吃音グループ活動
- 13日(木) 午後: 就学支援委員会
- 14日(金) 志茂田小学校「学芸会」児童鑑賞日
- 15日(土) 志茂田小学校「学芸会」保護者鑑賞日
- 17日(月) **振替休業日**
- 20日(木) 午後: 就学時前健康診断
- 24日(月) **振替休日**
- 25日(火) 午後: 通級研究会



12月10日(水) 14:45 ~ 16:30

ことばの教室「交流会」があります!(参観3年生以上 参加4年生以上)  
今年度もこどもたちのアイデア溢れる発表会を計画していますので、どうぞお楽しみに。



7月8日に武蔵野市児童発達指導センター 言語聴覚士の関口裕昭先生(当事者)の「発達性ディスレクシア」に関する研修を受講しました。その一部をご紹介します。



## 発達性ディスレクシアの指導・支援



### ～ことばの教室でできること～

「発達性ディスレクシア(発達性読み書き障害)とは、文字を読んだり書いたりすることが苦手であることです。私たちの生活の中に文字はどこなところにあるでしょうか?あらゆるところにありますよね。生きていくといたるところにある文字が『敵』に見える。」と先生はおっしゃっていました。日本の小学生の内、読み書きが苦手な子どもは約8%、40人クラスに2~3人いるといわれています。努力不足といわれがちですが、脳の問題であるため努力してもみんなと同じようすることは難しいです。

#### 関口裕昭先生(当事者)の実体験

- ・小学生の時は音読の宿題を頑なにやらなかった。できる子と思われたいため、できていない自分を隠した。漢字テストはできても、一週間後にはほとんど書けない。これは自分の努力不足だと感じていた。違和感はあるが、その正体が何かわからない不安を抱いていた。
- ・中学生になると国語以外の教科にもかなり影響が出た。英語はそもそも単語が読めなかった。初見の問題が解けないため、定期テストと実力テストとの成績に差が出た。



#### ことばの教室でできること

- ・選択肢の提案：学びも多様になっている。
- ・できることの整理：自己理解の土台をつくる。
- ・配慮の前例を共有：みんなで1チームになる。
- ・特性理解をすすめる：自分の困っていることや必要な配慮を伝える。
- ・そのときまで待つ：長く険しい道のりを経て前を向くことができる。
- ・通常級の先生との架け橋：受容的な学級の雰囲気づくりを行う。



#### 大切なこと

- ・できないには理由がある。知ることが安心につながる。
- ・当事者自身が特性を理解し、自分に合った学び方・伝え方を知っていること
- ・配慮を自分で獲得すること。

「当事者自身が特性を説明でき、周囲がそれを理解してくれる世の中になるといいな。」というお言葉が印象に残っています。今回御紹介した関口裕昭先生の御著書は待合室に置いてあります。ぜひ御覧ください。

